

新規事業採択時評価結果(令和7年度新規事業化箇所)

担 当 課： 道路局 環境安全・防災課
担当課長名： 水野 宏治

事業の概要

スマートICアクセス		事業区分	地方道	事業主体	茨城県守谷市
事業名	(仮称)市道守谷スマートICアクセス道路2号線・4号線 (仮称)守谷SAスマートICアクセス				
起終点	自:茨城県守谷市大柏 至:茨城県守谷市野木崎			延長	0.6km
事業概要		(仮称)市道守谷スマートICアクセス道路は、常磐自動車道の守谷SAに設置を予定している(仮称)守谷SAスマートICへのアクセス道路であり、守谷SAから県施行の都市計画道路供平板戸井線、市道4026号線までの延長約0.6kmを整備するものである。			
事業の目的、必要性		事業の整備により、新たな企業誘致による地域経済の活性化、市内渋滞箇所の回避によるアクセス時間の短縮、地域産業拠点における輸送業務の効率化や救急救助活動への支援、さらに整備が進められている守谷総合公園やプロ野球球団の二軍施設移転による交流人口の増加が期待される。			
全体事業費	約25億円		計画交通量	約4,300台／日	
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見

- ・「第三次守谷市総合計画」(R4.3策定)に位置付けられている。
- ・「守谷市都市計画マスタープラン」(R2.3策定)に位置付けられている。
- ・守谷市と市内関係企業による本事業の早期完成の要望活動が行われている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

- ・新規事業採択時評価委員会(令和6年12月26日)において、新規事業化は妥当であると評価。

対応方針(採択理由)

費用便益比が 13.9 であることに加え、計画段階評価が完了するなど、事業実施環境が整っており、事業採択の前提条件が確認できる。また、(仮称)市道守谷スマートIC アクセス道路の整備により、市内渋滞箇所の回避による常磐自動車道へのアクセス時間の短縮、地域産業拠点における輸送業務の効率化、救急医療活動への支援や整備が進められている(仮称)守谷総合公園やプロ野球球団の二軍施設への利便性向上など、当該道路の整備の必要性・効果は高いものと判断される。

以上より、本事業は令和7年度新規事業箇所として妥当である。

事業評価結果（総合評価）

事業採択の前提条件	
☑便益が費用を上回っている	
☑事業実施環境が整っている	

費用 便益 分析	B/C		(参考)	EIRR	総費用	22億円	総便益	311億円			感度分析		基準年
		[4%]	13.9		36.3 %	〔 事業費：22億円 維持管理費：0.85億円 更新費：-1億円 〕	〔 走行時間短縮便益：268億円 走行経費減少便益：41億円 交通事故減少便益：2.1億円 〕				交通量変動	B/C＝12.5～15.3 （変動ケース:±10％）	令和6年
	(参考)	[2%]	20.7								事業費変動	B/C＝12.7～15.4 （変動ケース:±10％）	
		[1%]	26.0								事業期間変動	B/C＝13.3～14.5 （変動ケース:±20％）	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cは を対象とした場合の値、() 書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔)内は社会的割引率の値)

事業 の 影 響	評価項目		評価	根拠	
	自動車や歩行者へ の影響	渋滞対策	◎	・常磐自動車道へのアクセス性向上と周辺道路の渋滞緩和 谷和原ICを利用していた交通が(仮称)守谷SAスマートICに転換することにより、国道294号及び県道47号の混雑緩和が期待される。	
		事故対策	○	・交通安全の確保 (仮称) 守谷SAスマートICによりアクセス交通が分散されることにより、国道294号の交通量が減少し事故軽減が期待される。	
		歩行空間	○	・歩道整備による歩道の連続性の確保	
	社会全体への影響	住民生活	◎	・救急医療の支援 常磐自動車道へアクセス性の向上により第三次救急医療機関（筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院）までの時間が短縮（61分⇒59分）し、1時間圏域のカバー人口が約17,000人増加するなど、救急救助活動の迅速化が期待される。	
		地域経済	◎	・地域産業の活性化 (仮称) 守谷 SA スマート IC の整備により、周辺工業団地から東京方面へのアクセス性が向上し、輸送業務の効率化による生産性向上が期待される。 (某ビール工場から東京方面：約 11 分短縮、某発酵乳工場から東京方面：約 15 分短縮) また、計画されている周辺の土地区画整理事業計画と併せ、産業の活性化を先導的に図るための企業誘致及び新たな産業の創出に向けた土地利用が期待される。	
		災害	○	・災害時における周辺自治体との連携強化 「柏市常総地方広域市町村圏事務組合消防相互応援協定」により柏市と連携する際は、谷和原 IC まで迂回すること無く守谷市の中心市街地に急行することができるため、所要時間が2分短縮し、迅速な応援活動に期待される。	
		環境	—	注目すべき影響はない。	
		地域社会	◎	・観光施設へのアクセス性・利便性向上 常総運動公園までの所要時間が東京方面(柏 IC)から6分短縮し、利用者のアクセス性・利便性の向上が見込まれ、整備が進められている、(仮称)守谷市総合公園やプロ野球球団の二軍施設により、更なる集客が期待される。	

事業実施環境	
・常磐自動車道との連結許可（令和6年8月28日）	
・市内関係企業から早期整備が望まれている	